

演題名

Clostridioides difficile 感染症の診断、治療、 感染対策について

現地
開催

座長

聖マリアンナ医科大学
感染症学講座 教授

國島 広之 先生

演者

公立大学法人 福島県立医科大学附属病院
感染制御部 副部長/
感染制御学講座 准教授

仲村 究 先生

開催日時

2022年
1月29日(土)
12:15~13:15

開催場所

第8会場
仙台国際センター
展示棟1F 会議室3

本ランチョンセミナーは整理券制です。

整理券配布場所

- ①仙台国際センター展示棟1F 展示室内
配布時間：1月29日(土) 8:30~11:45 (なくなり次第終了)
- ②仙台国際センター会議棟2F ホワイエ
配布時間：1月29日(土) 8:30~11:15 (なくなり次第終了)

【注意事項】 整理券はセミナー開始5分後に無効となります。

Clostridioides difficile 感染症の診断、 治療、感染対策について

公立大学法人 福島県立医科大学附属病院
感染制御部 副部長／
感染制御学講座 准教授

仲村 究

Clostridioides difficile (以下、*C. difficile*) はグラム陽性の芽胞形成性嫌気性菌で、抗菌薬関連下痢症の起炎菌となる。*C. difficile* 感染症 (以下、CDI) の発症には病原体のトキシン産生性が重要であり、CDI の診断については日本臨床微生物学会の「*Clostridium difficile* 毒素遺伝子検査を踏まえた検査アルゴリズム」ならびに日本化学療法学会および日本感染症学会による「*Clostridioides difficile* 感染症診療ガイドライン」に記載されている 2 段階法が広く用いられている。イムノクロマト法を用いた GDH 検査の感度は一般的に高く、GDH 陽性かつトキシン陽性の場合には CDI と診断可能である。GDH 陰性かつトキシン陰性の場合には CDI は否定的となる。糞便検体におけるトキシン検査の感度は GDH に比して低く、GDH 陽性だがトキシン陰性の場合には、トキシン検出が偽陰性となっている可能性を否定出来ない。この際には、より感度が高い検査法である培養検査あるいは核酸増幅検査 (NAAT) 法を行うことが推奨される。これにより、トキシン産生性 *C. difficile* コロニー、あるいはトキシン遺伝子が陽性であれば、CDI の診断が可能である。トキシン産生性 *C. difficile* 培養 (toxigenic culture 以下、TC) は最も感度が高い検査であるが、培養自体に数日を要することや、嫌気培養を実施する必要がある、一定の設備を備えた微生物検査室が必要となる。一方で、NAAT は比較的短時間で結果が得られるものの、核酸抽出にあたっての専門的な手技が必要であったり、機器導入のための初期費用などが制限事項となっている。今回我々は、CDI が疑われた臨床検体を対象にイムノクロマト法と、今回新たに開発された「スマートジーン[®] CD トキシン B」を含む 4 種類の NAAT、および TC を行い、それぞれの結果について比較検討を行った。これらの結果に触れながら、CDI 診断における検査結果の解釈について検討する。また、CDI の治療における最近の状況や感染対策において注意すべき事項についても取り上げる。